

# 金沢の大学生のキャッシュレスに対する意識調査

藤澤ゼミ 2019 年度卒業 M.S

## 1. はじめに

隣国の韓国や中国と比較して、日本のキャッシュレス決済比率は、非常に低い（韓国 96.4%、中国 65.8%、日本 19.8%、2016 年）。消費税の増税（2019 年 10 月 1 日）に伴い、政府のキャッシュレス政策も進行しており、日本は現在、キャッシュレス決済普及の過渡期である。そこで、本研究では、若者のキャッシュレス決済に対する意識について、明らかにする。

## 2. 目的

先行研究では、若者はキャッシュレス決済を受け入れやすいとされている。しかしながら、体験的には、若者が普段利用している決済手段は、主に現金である。そこで、本研究では、「果たして若者は、キャッシュレスを受け入れるのか」をリサーチクエスションとして、「新しいものが好きな若者はキャッシュレス合意する」との仮説を検証した。本研究の目的は、若者のキャッシュレス決済に対する意識について明らかにすることとする。

## 3. 内容与方法

金沢大学、金沢大学院、北陸大学、金沢星稜大学にて、707 人を対象に、アンケート調査を行った。アンケート調査結果のデータを R で分析する。

アンケート調査の質問項目から、キャッシュレス決済に対する賛否について、賛成・どちらかというのと賛成：1、どちらかというのと反対・反対：0 という二項変数を作成し、被説明変数とした。また、先行研究を参考に、説明変数を 15 項目設定し、ロジスティック回帰分析を行った。モデル式は、以下の通りである。

$$y = \frac{1}{1 + e^{-(\beta_0 + \beta_1 x)}}$$

$y \in \{0,1\}$ : 被説明変数  
 $x$ : 説明変数  
 $\beta$ : 回帰係数

## 4. 結果と考察

表 1: ロジスティック回帰分析結果 (N=425)

	回帰係数	標準誤差	z 値	p 値
切片	6.039**	2.638	2.290	0.022
理解度	0.287	0.219	1.311	0.190
キャッシュレス決済手段の数	-0.119	0.077	-1.540	0.124
キャッシュレス決済利用頻度	0.051	0.033	1.551	0.121
現金派度	-0.518***	0.085	-6.128	0.000
キャッシュレス派度	0.589**	0.153	3.860	0.000
ポイント貯めたい	0.030	0.206	0.143	0.886
レシート溜めがち	-0.205	0.161	-1.271	0.204
性別 (男性ダミー)	0.222	0.334	0.663	0.507
年齢	-0.079	0.120	-0.653	0.514
大学 (国立ダミー)	-0.441	0.426	-1.035	0.301
文理 (文系ダミー)	0.116	0.417	0.278	0.781
住まい (一人暮らしダミー)	0.405	0.414	0.979	0.328
コンビニダミー (最も利用する買い物先)	-1.060**	0.453	-2.341	0.019
スーパーダミー (最も利用する買い物先)	-0.764*	0.451	-1.693	0.090
ATM 利用頻度	-0.098*	0.050	-1.956	0.051
新規性	0.583**	0.202	2.892	0.004

結果は、表 1 の通りである。現金派度とキャッシュレス派度、新規性について、統計的に有意に正となる結果が得られた。また、最も利用する買い物先が、コンビニやスーパーである人の方が、キャッシュレス決済を受容していないという統計的に有意に予想とは反対の結果が得られた。コンビニやスーパーは、利用できる決済手段が多く、キャッシュレス決済が行われやすいとされる。この原因として、都会と金沢との地域による違いが推測される。そこで、金沢市、石川県、東京都、福岡県の 1 km<sup>2</sup>あたりのコンビニエンスストア（大手 3 社）の店舗数を比較した。金沢市の 1 km<sup>2</sup>あたりのコンビニの店舗数は、東京都全体の 2 割弱と非常に少ないことが分かった。このことが、金沢の若者の決済行動に影響を与えているのではないかと考えられる。

## 5. おわりに

本研究は、地域限定的なため、調査地域の拡大などを今後の課題とする。

### <参考文献等>

- ・中田真佐男 (2010) 「少額決済サービス市場における構造変化：マイクロデータによる電子マネーの普及の実証分析」
- ・翁百合 (2019) NIRA 総合研究開発機構 「キャッシュレス社会に向けて何をすべきか」